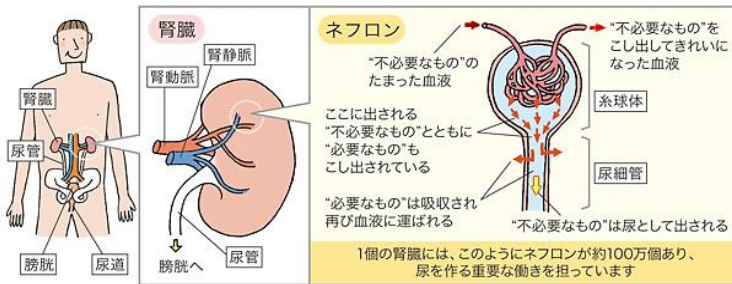
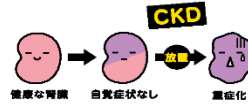


～あなたの腎臓は大丈夫？～



腎臓は「沈黙の臓器」と言われ、自覚症状が乏しく、症状を自覚した時にはすでに進行した状態となっている場合も少なくありません。また、腎臓は、機能がある程度まで低下すると、もとに戻すことが極めて難しい臓器で、腎臓の機能が徐々に低下していく様々な腎臓病の総称である「慢性腎臓病(CKD)」は今や国民の8人に1人と言われ、人工透析患者は年々増加しています。

●腎臓の働きと腎疾患の特徴

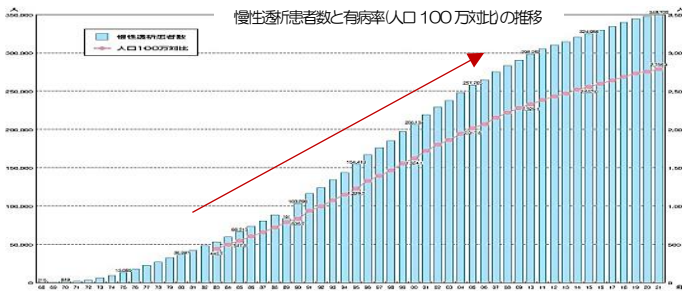


腎臓は背中側の腰骨の上あたりに左右1個ずつあります。大きさは握りこぶし大で、約150g、そら豆のような形をしています。腎臓は体内環境を最適な状態に整える大切な役割を果たしています。腎臓は毛細血管が球状に絡まった「糸球体」で血液の濾過を行っています。そのため、**腎臓の血管の障害は腎疾患に直結し、糖尿病や高血圧、脂質異常症、高尿酸血症等の生活習慣病や加齢が腎疾患発症の主なりリスクとなるので、生活習慣病の予防と治療継続による悪化防止が大切となります。**

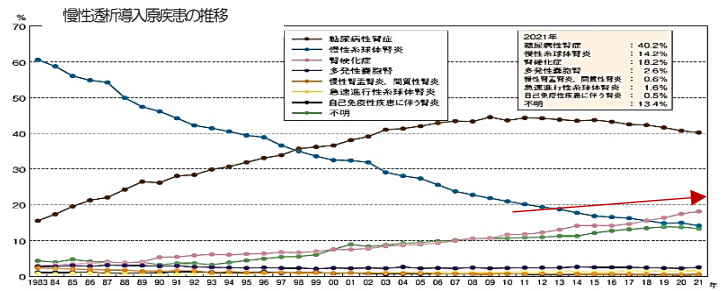
●慢性透析患者の現況

*出典腎疾患対策総合報告書

*日本透析医学会「わが国の慢性透析療法の現況(2021年12月31日現在)より



2021年末慢性透析療法を受けている患者総数は349,700人で、前年より2,029人増加しています。有病率は年々増加傾向で、2021年は人口100万あたり2,786.4人で、国民358.9人に1人が透析患者で、これは台湾に次いで世界第2位です。



2021年導入患者の原疾患で最も多いのは糖尿病性腎症で40.2%、次いで高血圧が原因による腎硬化症18.2%、慢性糸球体腎炎14.2%となっています。腎硬化症は2019年に慢性糸球体腎炎に代わり第2位になって以降も持続的に増加しています。

●腎臓の状態をチェックしよう!

〈慢性腎臓病(CKD)重症度分類〉

		尿蛋白		
		一・±	+	2+, 3+
eGFR	90以上	正常 (異常なし)	CKD (要観察)	CKD (精密検査)
	60~89	正常 (軽度低下)	CKD (要観察)	CKD (精密検査)
	45~59	CKD (要観察)	CKD (要観察)	CKD (精密検査)
	45未満	CKD (精密検査)	CKD (精密検査)	CKD (精密検査)

*慢性腎臓病(CKD)の程度の判断には「尿蛋白」と「eGFR」の両方が重要です。「尿蛋白」が出ていなくても、「eGFR」が低い場合、反対に「eGFR」の数値は高いが、「尿蛋白」が継続して出ている場合も注意が必要です。

※ 参考：厚生労働省HP、日本透析医学会HP、

福利課健康支援係
電話：011-231-4111 (内線：35-380)

※健康診断結果のここを見よう!!

尿蛋白 (単位) (値) (単位) (値)

尿蛋白

*尿蛋白とは・・・
本来は腎臓で処理されているはずの蛋白が尿に出ている状態

eGFR (単位) (値) (単位) (値)

eGFR

*eGFRとは・・・
日本語では「推算糸球体濾過量」と言われ、腎機能の指標となるので、年齢・性別・血清クレアチニン値を使い計算します。